

# 鳥海山の火山活動解説資料（令和4年7月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1、図2）  
上郷2監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。
- ・地震や微動の発生状況（図3）  
火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。
- ・地殻変動の状況（図4、図6）  
火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

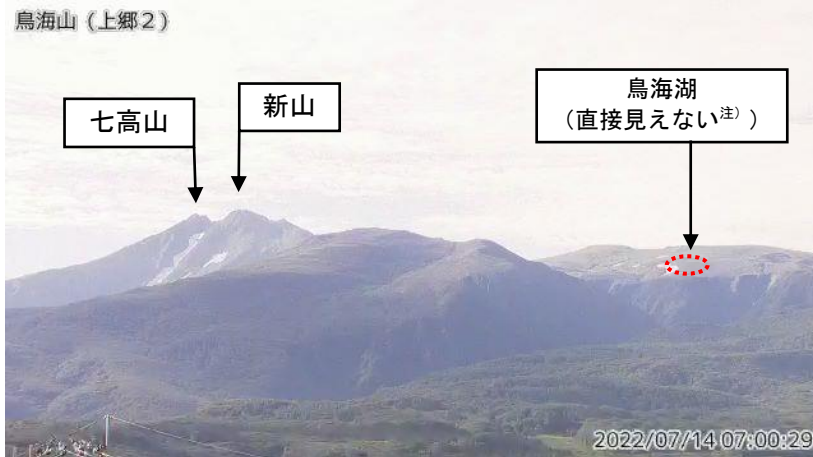


図1 鳥海山 山頂周辺の状況（7月14日）

- ・上郷2監視カメラ（山頂の北西約13km）の映像です。
- ・注）鳥海湖から噴気が噴出した場合、高さ200m以上のときに上郷2監視カメラで観測されます。監視カメラからは直接見えませんが、赤破線が鳥海湖の位置を示します。

噴気は認められませんでした。

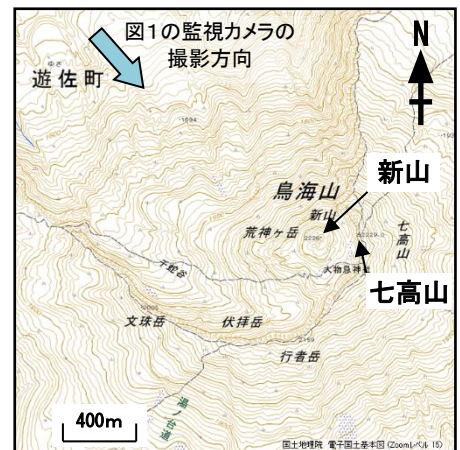


図2 鳥海山 新山と七高山位置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和4年8月分）は令和4年9月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。

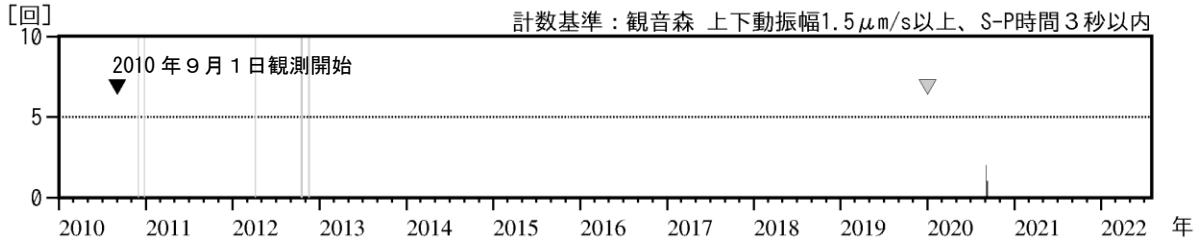


図3 鳥海山 火山性地震の日別回数（2010年9月～2022年7月）

- ・地震計数に使用した観測点は次の通りです。（角カッコ内は地震回数の計数基準）
  - ▼ 観測開始 2010年9月1日～ 観音森観測点 [振幅 1.5 $\mu$ m/s 以上、S-P 時間 2秒以内]
  - ▽ 2020年1月1日～ 観音森観測点 [振幅 1.5 $\mu$ m/s 以上、S-P 時間 3秒以内]
- ・図中灰色部分は欠測を表しています。
- ・2010年9月1日からの火山観測網によって観測された地震の回数です。

火山性地震および火山性微動は観測されませんでした。

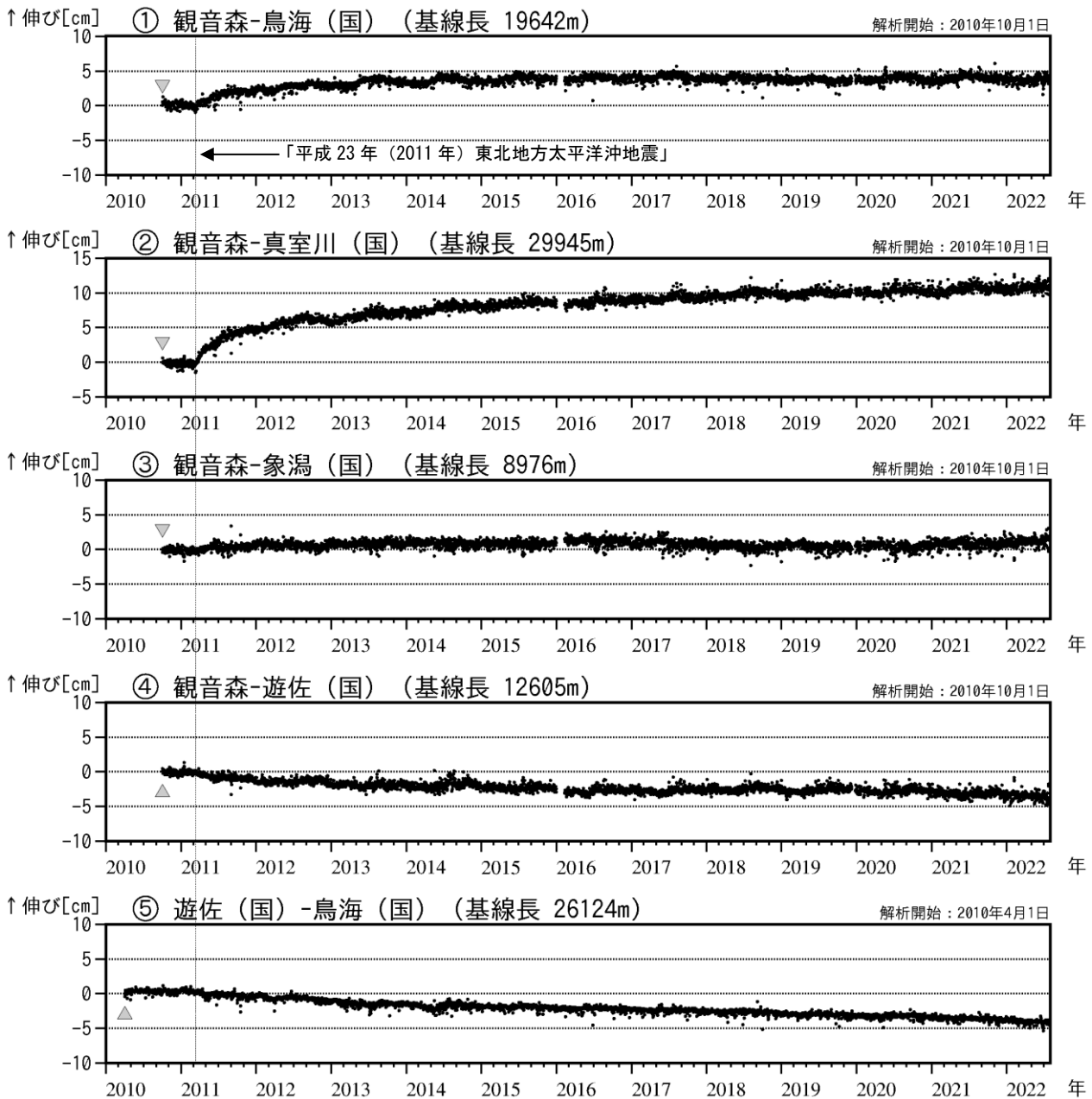


図4 鳥海山 GNSS 基線長変化図（2010年4月～2022年7月）

- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑤は図6のGNSS基線①～⑤に対応しています。・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ▼▲：解析開始を示します。 ・（国）は国土地理院の観測点を示します。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

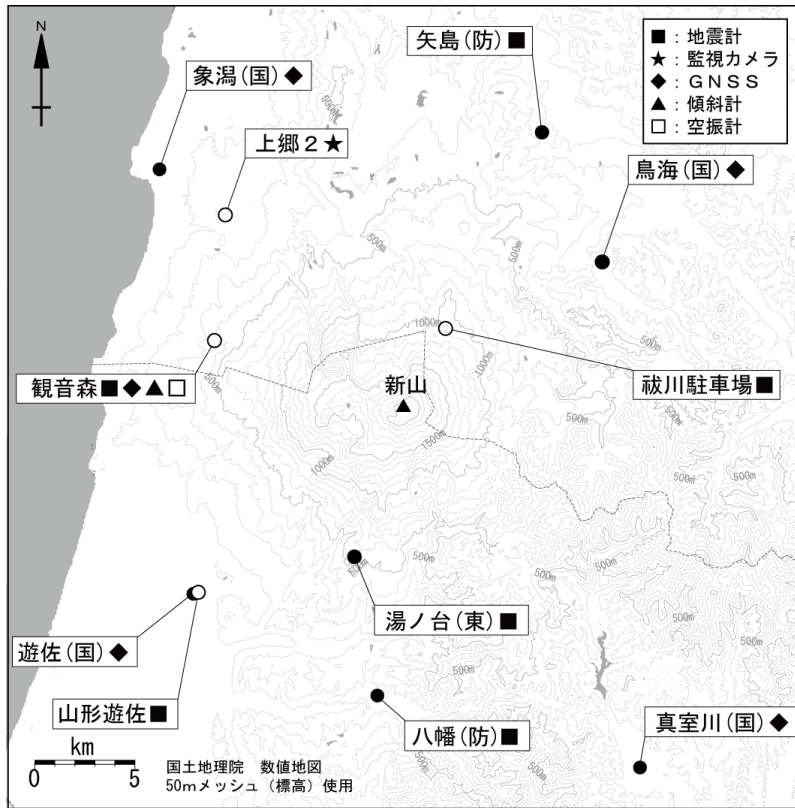


図5 鳥海山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

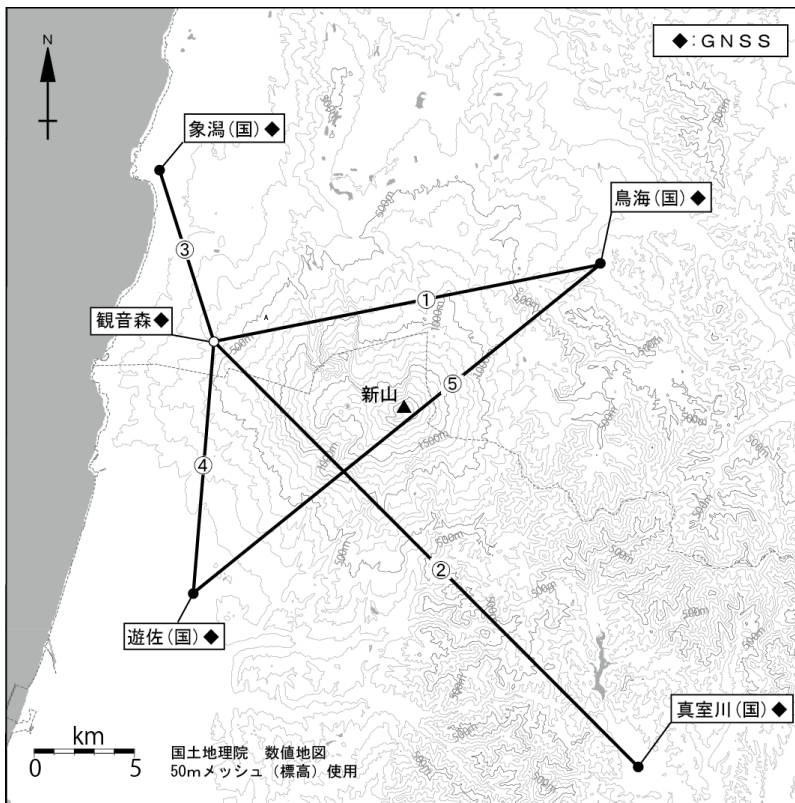


図6 鳥海山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院